58　『海上懶翁医宗心領』の「内経要旨」について

浦山　きか
東北大学史料館／森ノ宮医療大学

『海上医宗心領』（『懶翁医宗心領』とも）は，黎有卓（Le Huu Trac，一七二四～一七九一）の撰になる医学全書であり，成書は景興三十一年（一七七〇）とされる．もと二十八集・六十六巻，今に二十七集・五十五巻が伝わる．首巻は五部に分かれ，医療倫理ともいうべき「医訓格言」ほかを収録する．第二集が「内経要旨」である．本稿ではベトナム国家図書館の収蔵になる『新鐫海上懶翁医宗心領全帙』を底本とする「海外漢文古医籍精選叢書・第二輯」（蕭永芝主編，二〇一八年一月，北京科学技術出版社）所収の同書に拠り，「内経要旨」の構成と引用方法について調査した．

「凡例」には「一　纂輯内経問対諸篇，採取章句義脉，分為七條，其経一字不敢増損．一　経中注釈，凡有支離繁襍者，亦刪定之．一　集中陰陽・化機・臓腑・病能・治則・頤養・脉経，各随経文，断章取義，分類編註」とあり，実際に陰陽・化機・臓腑・病能・治則・頤養・脉経の七章から構成されている．『内経知要』の「道生・陰陽・色診・脉診・蔵象・経絡・治則・病能」と比較すると，『霊枢』経脉篇を踏まえた「経絡」が無く，部分的に経脉の走行を記すに留める．「化機」は五常政大論篇を踏まえつつ，北宋・陳景元『南華真経章句余事』等を意識したとも見られる．

引用を検討した結果，基本的には王冰注『素問』からの抜粋であり，経文と王冰注を含めて引用するが，経文が一字一行で王冰注が細字双行の形式ではない．引用諸篇を次註本『素問』の編次に従って記すと以下のようになり，四十篇以上から引用している．

【陰陽】四気調神大論篇第二・生気通天論篇第三・陰陽応象大論篇第五・逆調論篇第三十四・天元紀大論篇第六十六
【化機】上古天真論篇第一・陰陽応象大論篇第五・陰陽離合論篇第六・六節藏象論篇第九・診要経終論篇第十六・五蔵生成論篇第十・経脈別論篇第二十一・八正神明論篇第二十六・離合真邪論篇第二十七・太陰陽明論篇第二十九・五常政大論篇第七十・六元正紀大論篇第七十一
【臓腑】霊蘭秘典論篇第八・六節藏象論篇第九・刺禁論篇第五十二
【病能】生気通天論篇第三・金匱真言論篇第四・陰陽応象大論篇第五・湯液醪醴論篇第十四・診要経終論篇第十六・脉要精微論篇第十七・玉機真蔵論篇第十九・三部九候論篇第二十・経脉別論篇第二十一・宝命全形論篇第二十五・通評虚実論篇第二十八・太陰陽明論篇第二十九・陽明脉解篇第三十・評熱病論篇第三十三・逆調論篇第三十四・挙痛論篇第三十九・痺論篇第四十三・痿論篇第四十四・厥論篇第四十五・病能論篇第四十六・奇病論篇第四十七・刺志論篇第五十三・皮部論篇第五十六・骨空論篇第六十・水熱穴論篇六十一・至真要大論篇第七十四
【治則】四気調神大論篇第二・陰陽応象大論篇第五・移精変気論第十三・湯液醪醴論第十四・八正神明論篇第二十六・離合真邪論篇第二十七・痿論篇第四十四・刺禁論篇第五十二・標本病伝論篇第六十五・五常政大論篇第七十・六元正紀大論篇第七十一・至真要大論篇第七十四・疏五過論篇第七十七・徴四失論篇第七十八・方盛衰論論篇第八十
【頤養】上古天真論篇第一・四気調神大論篇第二・八正神明論篇第二十六
【脉経】陰陽別論篇第七・六節蔵象論篇第九・『素問』五蔵別論篇第十一・脉要精微論篇第十七・平人気象論篇第十八・玉機真蔵論篇第十九・『素問』三部九候論篇第二十・通評虚実論篇第二十八・腹中論篇第四十・陰陽類論篇第七十九

散見する「此言～」から始まる文は按語と考えられ，引用した経文を端的に表わす役割を果たしている．医学思想としては，「脈経」に経文・注釈には無い「蓋胃為六腑五臓之大主」という文も見え，「治則」に「李東垣七方図」（大・小・緩・急・奇・偶・複）を記したことは，蕭永芝（前掲書「内容提要」p13）の指摘した「重視後天脾胃」という特徴と呼応する．黎有卓は「脾胃重視」の考え方を持ち，「内経要旨」にもそれが表れていると言えよう．